

長谷釜町内会



会長
菊地幸一さん

集団移転に理解を

東日本大震災が発生し、当地区も壊滅状態となりました。長年住み慣れた町内もがれきの山と化し、この先何を目標に生きていったらいいか見当もつきません。以前から

防災訓練を徹底していたのに37名の尊い命が奪われたことは今更ながら悔やまれます。残された我々にできることは何かと考えたとき、今まで築いた絆をより深めるため集団で移転し、人と人のつながりを強くしたいのです。そのためには、国、県、市の行政の支援が早急に必要です。我々も最大限の努力をしますので、議会の皆さまの支援を切にお願いします。

二野倉町内会



会長
小林一良さん

共に歩む

我々二野倉住民は、集団移転を希望しています。マイナスからのスタートを共に一歩ずつ進みたいのです。

憶測で勝手なうわさが流れていますが、国、県、市からの方向性が一向に伝わってきません。全てを失った今、新たに土地を買い、家を建てることは不可能に近く、また、玉浦地区は市街化調整区域のため家を建てることもできません。住民には、恵み野を検討する方もいますが、現在の収入では返済が難しくなります。これまで住んでいた土地を国に買い取っていただくことが不可欠なのです。一日も早く良い知らせが届くことを被災者は強く願っております。

相野釜町内会



会長
中川勝義さん

歴史ある集落の復旧を！

私たちのまち（集落）は何百年もの歴史があり、自然豊かな集落であったが、千年に一度といわれる大地震と大津波が襲来し、一瞬にして歴史のある海岸沿いの集落は全て

流出し、がれきの山になってしまいました。

集落再生は、災害に強いまち、津波に強いまちを基本にして、集落の歴史と特徴を失わないまちづくりが大切と思います。

行政も復興プランをつくると思うが、議会も力を結集して、前向きな議論を積み重ね、実効性のあるプランを立て、行政に進言できる議会であることを望みます。

藤曾根町内会



会長
佐藤 勲さん

安心して暮らせる まちづくりを

あの震災から4カ月余り経過しておりますが、具体的な市の復興計画が見えてきません。住民は、今後の人生設計を余儀なく立て直さなければなりません。町内では、集団移転を希望していますが、資金の目途がないため、住んでいた宅地を国、県、市で買っていただき「生まれ育った東部地区」に住みたいと願っています。また、医療機関があり、買い物ができる安全なまちに移転することを希望しています。

議会の皆さんへ。今後とも被災地区の住民の意見を取り入れることを期待します。